

二科会写真部通信

全国に支部を持つ団体

毎年9月に国立新美術館で公募展が開かれている二科会写真部は、創立70周年を迎えました。秋山庄太郎、林忠彦、大竹省二、早田雄二さんが創立会員となり、その後全国各地に支部が拡大。写真界の一大組織となり、現在も多くの人が、美術館で展示されることを目標に出品しています。

まもなく創刊50年になる本誌も二科との関わりが深く、「全国の二科の発表の場」としての役割も担っています。全国にいる会員・会友は各地のトップリーダーでもあり、本誌を教科書に指導をしているところもあるほどです。二科会写真部と本誌が連携し、全国各地の情報を集めて、活発な活動を紹介していくとともに、二科会写真部展の魅力もお伝えしていきます。

応募へ向けて 作品づくりを始めよう

80年へ向けての第一歩となる第71回二科会写真部展の応募要項が発表になっていますが、作品受付期間は、3月1日(水)から10日(金)です。部門は今年も、A単写真部門、B組写真部門、Cアートフォト部門とっており、入賞・入選作品は9月6日(水)から18日(月)まで東京の国立新美術館で展示されます。



自分の作品を多くの人に見てもらえる絶好の機会になるはず。

最新ニュース

70年史の 制作が 進行中！

写真と読み物で見応えたっぷり

これまでに二科会写真部では50年、60年史を刊行してきましたが、70年を迎えた今回も記念史を発行予定。現在、制作中ですが、対談を中心とした読み物と全国の支部から寄せられた作品と文、さらには二科会の年表で構成されています。注目は、大学生が二科展を鑑賞し、その感想を語る対談。二科の写真はどう見て、何を感じたのかに注目。各支部のこの10年のあゆみもレポート。それぞれの課題も浮き彫りになっています。

希望者は購入もできますので次号でご紹介します



2023年1月号

応募要項

第71回二科会写真部展

作品受付期間 **3月1日(水)~10日(金)**
※消印有効

資格 ● 年齢、プロ・アマ、国籍問わず
部門 ● ①A 単写真部門=単写真
②B 組写真部門=3枚組写真
③C アートフォト部門=単写真

テーマ ● 自由
※本人が撮影した「未発表作品」に限る

サイズ ● 白黒・カラー=四ツ切~A4
銀塩プリント/デジタルプリントのいずれも可
作品の画像周囲四辺にフチを付ける
(白フチまたは黒フチで幅4mm以上)

賞 ● ①二科賞(1名)=賞状・賞金50万円
②全国知事会賞(1名)=賞状・賞品
③日本カメラ財団賞(1名)=賞状・賞品
④協賛会社賞(多数)=賞状・協賛会社賞
⑤奨励賞(若干名)=賞状・作品集

応募料 ● ①③2千円(1点につき) ②5千円(1組につき)

発表 ● 直接通知

送り先 ● 〒352-0012 埼玉県新座市畑中1-8-27

アイエスピー内 二科会写真部「第71回展」係

問合せ ● ☎03-3470-8033

新潟支部×フォトコン

「写真の楽しみ方を見つけよう！」

二科会写真部新潟支部と本誌のコラボイベントを開催。フォトコン編集長が写真の楽しみ方についてトークします。一般の参加も受付中ですので、ぜひご参加ください。

日時：令和5年1月21日(土)11:30~12:30
会場：駅南キャンパストキメイト(新潟駅隣接)
新潟市中央区笹口1丁目1番地プレーカ1・2階

演題：写真の楽しみ方~コンテスト応募や
ライフワークを見つけて楽しもう

参加費：1,000円

申込み：nikakainiigata@gmail.com

☎090-3145-6648(金子)

正直言って、賞金50万円は魅力です。そして国立新美術館に展示されるのも誇りに感じることでしよう。とはいえ、応募しないことにはどちらにも手に入れることはできませんから、新年早々作品の準備を始めましょう。

選びが変わってくるはず。よく言われる傾向としては、「シンプルで主張が伝わりやすい写真」が挙げられますが、これをどう解釈するかがポイントです。あとはプリント仕上げです。信頼の置けるプロラボに自分の思いを伝え、それが忠実に再現されているものを応募することです。ここで失敗するとすべてが台なしになりかねません。3月はあっといいう間にやってくるから直前になって慌てないようにしましょう。

プリントで見せるものなので重要になります

写真弘社 渋井 誠さん

当社では、二科会写真部の創立より現在に至るまで全国各地の皆様から二科展への応募プリントや本展展示作品の制作をお手伝いさせていただいております。どんなに素晴らしい瞬間をとらえたとしてもプリントの仕上げひとつで台なしになり、審査員の目には止まりません。応募プリントから仕上げにはこだわっていただきたいと思っております。経験豊富な技術者が長年培った技術で作者の制作意図を反映させ、細部にまでこだわってプリント仕上げを行っておりますので、ぜひ一度プロフェッショナルなプリントクオリティを応募プリントからお試しいただければと思います。

二科会写真部70年史の主な内容

「写真の現在地を語る」

野町和嘉×生方純一×片岡順一×蜂須賀秀紀の四氏による座談会。

「二科の魅力」

二科に応募する魅力について5つの視点で検証します。

「二科賞の70年 全作品を振り返る」

応募者の憧れで最高賞である二科賞を振り返ります。

「二科の通ってきた道、これから向かう道」

森井禎紹×近藤誠宏×片岡順一の三氏による座談会。

「二科会写真部が80年に向けてやるべきこと」

8地区の代表理事による座談会。

「この一枚が忘れられない。」「50年後まで残したい私のふるさと」

全国の支部から寄せられた写真と文で綴ります。

「大学生が見た二科の写真」

一般社団法人日本学生写真部連盟に所属する学生が二科展を語ります。

70歳制作の裏側

広報委員 角尾抽臣子さん

現在、70年史の制作を進めています。二科会の魅力が詰まった内容になっています。全国の支部から寄せられた作品と文章は読み応えがありますし、さまざまなテーマで座談会を開催、今後の写真とは、より写真を楽しむには、ということを考えるきっかけになると思います。二科賞の全作品も一気に振り返っていて、歴史を感じることできます。